

PUM 1.0.6 インストール手順

1. パッケージのダウンロード

以下の URL よりパッケージをダウンロードしてください。

```
https://www.promark-inc.com/dl/UpdateManager/pum_1.0.6-linux.tar.gz
```

2. パッケージの展開

パッケージを/tmp にダウンロードした場合以下の手順で展開します。

```
# cd /tmp
# tar xzf pum_1.0.6-linux.tar.gz
```

※展開してできるディレクトリはインストール後削除しても構いません。

3. 新規インストール

PUM インストールは、以下の手順で行います。インストールは root ユーザで行います。

```
# cd /tmp/pum_1.0.6
# ./install.sh
PUM 1.0.6 installer start
chcek web server ... done
check PUM directory ... done
install package ... done
install cron job(daily) ... done
PUM cron job already installed.
Redirecting to /bin/systemctl status httpd.service
./ibm/x86/
./ibm/x86/PSHB03.lst
./ibm/x86/PSHB03/
./ibm/x86/PSHB03/README
./ibm/power/
./ibm/power/PSHB07/
./ibm/power/PSHB07/README
./ibm/power/PSHB06.lst
./ibm/power/PSHB06/
./ibm/power/PSHB06/README
./ibm/power/PSHB07.lst
./ibm/605/
./ibm/605/PSHB08/
./ibm/605/PSHB08/README
./ibm/605/PSHB08.lst
./ibm/s390/
./ibm/s390/PSHB08/
./ibm/s390/PSHB08/README
./ibm/s390/PSHB08.lst
./psaix_update.lst
./pse_update.lst
./psps_update.lst
./pssx_update.lst
ProScan update data extract ... done
PUM 1.0.6 install complete
```

apache の起動までを自動的行います。もし apache を起動済みであればインストール前に停止状態にしてください。

4. アップグレード

すでに PUM をお使いの場合は、アップグレードを行ってください。こちらも root ユーザで行います。

```
# cd /tmp/pum_1.0.6
# ./upgrade.sh
PUM updater start
check PUM directory ... done
upgrade package ... upgrade complete
```

update.sh を実行すると自動的にアップグレードが完了します。設定情報はそのまま引き継ぎますが、新しい設定に関しては、設定ファイルに記述する必要があります。

5. 設定方法

PUM の設定はインストール時に自動的に行われますが、デフォルト以外の設定を行う場合には以下のようにしてください。

(1) PUM の設定ファイル

PUM の設定ファイルは/etc/pum.conf または/opt/proscan/pum/pum.conf(こちらが優先されます)となります。こちらのファイルに設定内容を記述します。PUM は常駐プロセスではないため起動時にこのファイルを読み込んで動作を行います。pum.conf の内容を次頁に示します。

```
# pum.conf

# mode
#mode=mirror
mode=server

# logfile
logfile=/var/log/pum.log

# log rotation
log_rotate=yes

# logging generation
log_generation=5

# update servers
#
# for
#update_servers=update.hoge.com:8000
#update_servers=
update_servers=clamav-latest.promark-inc.com,clamav-latest-2.promark-inc.com

# update protocol
# http or https
update_protocol=http

# proxy
#proxy_host=
#proxy_port=3128
#proxy_user=
#proxy_passwd=

# DNS resolver
dns_resolve=no

# garbage collection(*.cdiff file retention period)
# Number: days
retention_period=30
```

設定可能な項目は以下の通りです。

- ①logfile … ログファイル名を指定します。
- ②log_rotate … ログをローテートするかどうかを指定します。(yes/no)
- ③log_generation … ログの世代数を指定します。(ログローテートする場合)

- ④update_servers … アップデートデータを取得する先を指定します。複数のサーバをカンマで区切って指定可能です。ポート番号をデフォルトの 80 番から変更する場合には、hostname:8000 のようにします。
- ⑤mode … 動作モードを指定します。指定できるのは server または mirror です。デフォルトは server です。PUM の多段構成をとる場合には、下位の PUM は mirror モードとして上位 PUM と同期させることが可能です。(詳しくは管理者ガイドをご覧ください)
- ⑥proxy_host … Proxy サーバのホスト名または IP アドレスを指定します。
- ⑦proxy_port … Proxy サーバのポート番号を指定します。(デフォルトは 3128 です)
- ⑧proxy_user … Proxy サーバの利用に認証が必要な場合の ID を指定します。
- ⑨proxy_passwd … Proxy サーバの利用に認証が必要な場合のパスワードを指定します。
- ⑩dns_resolve … DNS を引くか(yes)、引かないか(no)を指定します。(デフォルトは no です)
- ⑪retention_period … cdiffファイルの保存期間を指定します。(単位は日です)
- ⑫update_protocol … アップデートサーバからダウンロードを行う場合のプロトコルを指定します。(デフォルトは http です)

(2)Proxy 経由の場合の設定

Proxy サーバの情報を proxy_host,proxy_port に設定すると Proxy サーバ経由でのアクセスとなります。認証が必要な Proxy サーバの場合、proxy_user,proxy_passwd にも合わせて設定を行ってください。

(3)DNS レゾルバ

基本的にはDNSを引かず、弊社アップデートサーバの検証済みVDF配信サイトからのアップデートを推奨します。リアルタイム性を重要視するお客様は、yes の設定で ClamAV 提供のアップデートサーバを利用するようにしてください。

(4)自動起動

定期的にアップデートデータを取得するには、cron により PUM の起動を行います。デフォルトでは、/etc/cron.hourly に pum.conf が設定され毎時定時に起動されるようになっています。この起動タイミングを変更するには、このファイルを削除し、crontab への設定を行います。

例えば、2 時間ごとに起動するには以下のような設定を行います。

```
0 */2 * * * root /opt/proscan/pum/pum
```

(5)Web サーバの設定

Web サーバ(Apache)の設定もインストール時に自動的行われます。もし標準の 80 番ポート以外での運用を行う場合には/etc/httpd/conf.d/pum.conf に以下の設定を行います。

```
Listen 8000
```

6. 動作確認

インストール直後は、まだ、Web サーバ上にアップデートデータがないため、一度 pum を実行します。

```
# /opt/proscan/pum/pum
```

データのミラーリングを行うため、多少時間がかかります。

実行し終わったら、ログファイルを確認してください。

```
pum REV=1.0.6 start : Mon Jul 1 11:26:04 2019 -----
Read configuration file (/opt/proscan/pum/pum.conf)
check update host(clamav-latest.promark-inc.com)
update server is clamav-latest.promark-inc.com
file main.cvd does not exists, skipping
file main.cvd version unknown, skipping cdiffs
Version: 0.99.2:58:25495:1561865340:1:63:48814:328
FIELDS main=58 daily=25495 bytecode=328
cp: `main.cvd' を stat できません: そのようなファイルやディレクトリはありません
Use of uninitialized value in numeric gt (>) at clamav_mirror line 132.
2019-07-01 11:26:15 URL:http://clamav-latest.promark-inc.com/main.cvd [117892267/117892267] ->
"main.cvd" [1]
file temp/main.cvd is newer than main.cvd
file daily.cvd does not exists, skipping
file daily.cvd version unknown, skipping cdiffs
`temp/main.cvd' -> `main.cvd'
cp: `daily.cvd' を stat できません: そのようなファイルやディレクトリはありません
Use of uninitialized value in numeric gt (>) at clamav_mirror line 132.
2019-07-01 11:26:18 URL:http://clamav-latest.promark-inc.com/daily.cvd [42726642/42726642] ->
"daily.cvd" [1]
file temp/daily.cvd is newer than daily.cvd
file bytecode.cvd does not exists, skipping
file bytecode.cvd version unknown, skipping cdiffs
`temp/daily.cvd' -> `daily.cvd'
cp: `bytecode.cvd' を stat できません: そのようなファイルやディレクトリはありません
Use of uninitialized value in numeric gt (>) at clamav_mirror line 132.
2019-07-01 11:26:18 URL:http://clamav-latest.promark-inc.com/bytecode.cvd [199693/199693] ->
"bytecode.cvd" [1]
file temp/bytecode.cvd is newer than bytecode.cvd
`temp/bytecode.cvd' -> `bytecode.cvd'
release new vdf
cp: `/var/www/clamav/*.cdiff' を stat できません: そのようなファイルやディレクトリはありません
```

途中、「そのようなファイルやディレクトリはありません」「Use of uninitialized value in numeric gt...」等のエラーが表示されていますが、これは一番最初にデータがない状況でミラーリングを実施しているためです。2 回目以降は表示されません。

7. その他

PUM のセットアップ完了後は、ProScan 側のアップデート先を変更し、テストを実施してください。

以上

付録 PUM 設定ガイド

1. インストールされるファイル

PUM のインストールでは以下のファイルがインストールされます。

/opt/proscan/pum ディレクトリ

```
-rwxr-xr-x 1 root root 3498 6月 29 00:17 clamav_mirror
-rwxr-xr-x 1 root root 1695 6月 28 22:28 install.sh
drwxr-xr-x 2 root root 106 7月 1 11:16 new
-rwxr-xr-x 1 root root 3739 6月 28 21:12 proscan_mirror
-rwxr-xr-x 1 root root 6353 6月 28 21:12 pum
-rw-r--r-- 1 root root 495 6月 28 21:12 pum.conf
-rwxr-xr-x 1 root root 723 6月 28 22:43 pum.cron
-rw-r--r-- 1 root root 1617 6月 29 12:29 pum_proscan_data.tar.gz
-rw-r--r-- 1 root root 15 6月 28 21:12 pum_web.conf
-rwxr-xr-x 1 root root 868 7月 1 11:15 upgrade.sh
```

/etc/cron.daily/pum.cron ファイル

/etc/httpd/conf.d/pum.conf ファイル

2. 設定ファイル

PUM は、/opt/proscan/pum/pum.conf に設定を行います。デフォルトで下記設定がされています。

mode=server	IUM の動作モードを指定します
logfile=/var/log/pum.log	ログファイル名を指定します
log_rotate=yes	ログのローテートを行う(yes)行わない(no)を指定します
log_generation=5	ログの世代を指定します
update_servers=clamav-latest.promark-inc.com,clamav-latest-2.promark-inc.com	弊社アップデートサーバ(ミラー先)を指定します
dns_resolve=no	DNS よりバージョン取得するかどうかを指定します
retention_period=30	*.cdiff ファイルを残しておく日数

3. 自動起動

PUM を定期的に起動するには個別に crontab への登録を行います。

例えば、毎日 17 時に変更するのであれば以下のように行います。

```
# vi /etc/cron.d/pum
0 17 * * * root /opt/proscan/pum/pum
```

4. ログファイル

PUM の実行ログは pum.conf で指定した /var/opt/pum.log に記録されます。ローテートの指定があれば、pum 起動時にローテート処理を実施します。ローテートは日単位に行われます。指定世代数より以前のものは削除されます。